

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立東村山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成
主幹教諭(教務主任兼務)＝事務局長、副校長1名、学年主任2名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(学年担当)、生活指導主任、
進路指導主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授等)2名、近隣小学校長、近隣教育委員会次長、警察署関係者、同窓会副会長、
PTA会長 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月20日（金）内部委員7名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営報告・学校経営計画について、各分掌からの報告、意見交換、
その他
 - 第2回 令和7年10月31日（金）内部委員6名、協議委員5名
授業公開、今年度前半の教育活動の状況について、今年度の学校評価アンケート等実施計画につ
いて、各分掌からの報告、意見交換、その他
 - 第3回 令和8年2月13日（金）内部委員7名、協議委員5名
授業公開、今教育活動の状況について、学校評価アンケートの報告について、各分掌からの報告、
意見交換、その他
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年10月31日（金）内部委員2名、協議委員1名
学校評価アンケートについて、意見交換、その他
 - 第2回 令和8年2月13日（金）内部委員2名、協議委員1名
学校評価アンケートについて、意見交換、その他

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点 ①学校生活 ②学習指導 ③生活指導 ④進路指導 ⑤特別活動・部活動
⑥健康指導・安全指導・教育相談 ⑦体罰の防止 ⑧エンカレッジスクール
の8観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期と回収率

実施時期	対象	人数	回収数	回収率
12月	全校生徒	545人	494人	90.6%
12月	保護者全員	545人	128人	23.3%
12月	地域・住民	8人	8人	100.0%
12月	教職員	43人	43人	100.0%

(3) 主な評価項目

上記(1)の学校評価の観点の8観点について、項目数、生徒29項目、教員31項目、保護者30項目、地域20項目で調査を行った。

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

① 学校に対する満足度

ア 「東村山高校に入学してよかった」(右表)

昨年度は生徒全体が83%であったことから、本校に入学してよかった生徒は増加している。

1年生	2年生	3年生	生徒全体
89%	82%	84%	85%

イ 「学校生活は楽しく、充実していると感じる」(右表)

昨年度の生徒全体89%から横ばいであった。概ね、東村山高校に満足して通学していると考えられる。

1年生	2年生	3年生	生徒全体
90%	89%	88%	89%

ウ 保護者について、「東村山高校に入学してよかった」が88%と高い数値であったが、「あまり思わない」と回答した保護者が12%あったことから、自由意見等でいただいた意見を今後検討していきたい。

エ 保護者について「学校生活は楽しく、充実していると感じる」は90%であり、昨年度の88%と大きな差は見なれなかった。

オ 「授業・学校行事・部活動などで、たくさんの思い出ができています」(右表)

生徒、保護者の数値は昨年度と比較して、やや減少している。

	生徒全体	保護者
今年度	89%	88%
昨年度	90%	91%

カ 教職員について、「東村山高校に入学してよかった」86%、また

「学校生活は楽しく、充実していると感じる」91%と回答しており、生徒と保護者の期待に応えられるよう教育活動に臨んでいる。

キ 教職員について、「授業・学校行事・部活動などで、たくさんの思い出ができています」に関しては93%であり、概ね、満足できる体験を提供できたと考えている。

② 学習指導に対する満足度

ア 「授業はわかりやすく、先生方は教え方や教材を工夫していると思う」(右表)

全体的に数値が高いことから、教員はわかりやすく丁寧な指導を行なっている様子が見て取れる。

1年生	2年生	3年生	生徒全体
92%	88%	85%	89%

また、昨年度1年生は83%であったことから1年後に5ポイント増加、今年度の1年生の回答は9ポイント増加しており、学習指導の成果は見られる。

ただし、保護者からの肯定的な回答が77%であり、昨年度の85%から8ポイント低下している。このことから学校での学習指導の家庭内での共有が減少していると考えられる。

イ 「進路を実現するための科目が充実している」(右表)

生徒だけでなく、保護者に対しても丁寧な科目の説明が必要である。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
88%	87%	82%	86%	77%

ウ 「成績の出し方は、ていねいに説明されている」(右表)

成績の出し方について保護者への周知を充実させる必要がある。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
93%	92%	84%	90%	78%

エ 「授業やテスト勉強など積極的に取り組んでいる」(右表)

勉強に取り組む環境や方法、内容などを更に検討し改善

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
83%	74%	72%	76%	74%

する必要がある。現在、本校では、朝学習、校内寺子屋（放課後学習）など基礎学力定着のための事業を実施しており、また次年度への改善について検討を重ねている。

③ 生活指導に対する満足度

ア 「身だしなみを整えたり挨拶をしたり、時と場合に応じた身なりと行動ができる」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
97%	93%	91%	94%	88%

満足度が高いが、教員は「学校の生活指導の在り方について理解して学校生活を送っている」について44%であり、生徒・保護者と教員の数値に乖離が見られた。制服の着こなしや化粧等の身だしなみについて、指導の徹底が難しい現状がある。

イ 「家庭や学校で、相手の立場をふまえた適切なコミュニケーションができています」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
95%	94%	91%	94%	87%

比較的数値は高いが、コミュニケーションスキル不足やSNSでのやり取りなどによる生徒間でのトラブルがあるため、その都度、教員が間に入って指導を行っている。

ウ 「教員、学校よ、生徒の悩みや相談に親身に応じてくれる」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
89%	92%	86%	89%	75%

比較的満足度は大会。今後も必要に応じて、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの連携を図っていく。

エ 「自転車マナーなどの登下校の安全指導が行われている」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
93%	82%	85%	87%	81%	84%

地域からの自由意見の中で、ヘルメット着用が不十分であるという意見もあり、今後も継続した指導を行なう必要がある。

オ 「服装や髪型指導はしっかり行われている」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
95%	92%	87%	91%	92%	93%

教員の常日頃の指導が反映しているものと思われる。

④ 進路指導に対する満足度

ア 「進路について、自分なりに考え対策している」、「進路講話や学年の進路指導などは、自分の進路を考える上で役立っている」については、総合的な探究の時間でのキャリア教育を進めている成果もあり、生徒、保護者、教員とも90%前後の数値である。特に3年生生徒96%、3年生保護者95%と高い数値であった。進路指導部と学年団が連携して1年生から将来の進路実現のため、キャリア教育を積重ねている結果といえる。

イ 「担任や進路指導部の教員は、自分の進路に関する相談に乗ってくれる」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
88%	90%	92%	89%	80%	98%

進路実現のため教員が面接指導等を根気よく実施していることが評価につながっていると思われる。

「進学応援型」を掲げる本校は都内の他のエンカレッジスクールの中で進学率は高い方であるが、指定校の開拓や、生徒の多様な進路希望を実現するためのさらなる対応力が進路指導に求められる。

⑤ 特別活動・部活動に対する満足度

ア 「ホームルームは、居心地がよいと感じる」(右表)

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
89%	92%	86%	89%	75%

昨年度の生徒の満足度81%、保護者85%だったことから保護者の満足度に10ポイントの低下が見られた。生徒にとって

は学習やホームルーム活動をする上である程度良好な居場所を提供できていると考えられるが、家庭内で

の満足度は減少している。

イ 「学校行事は楽しく充実している」(右表)

この数値は、昨年度の数値とほぼ同じである。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
96%	85%	86%	89%	88%	89%

ウ 「部活動に積極的に取り組み、充実した活動が
できている」

生徒と教職員の数値はほぼ同じであるが、保護

者は、昨年度の79%から、12ポイント減少している。バドミントン部やビームライフル部が活躍し、各大会において上位入賞に入るとともに、演劇部が関東大会に初出場を果たしているが、保護者満足度の向上や部活動全体を通しての取組は今後の課題である。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
83%	76%	77%	78%	67%	75%

⑥ いじめなどに対応した教育相談・健康指導・安全指導に対する満足度

ア 「悩みや、いじめなどを相談するカウンセリング
等の教育相談が充実している」(右表)

比較的高い数値である。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者	教職員
92%	87%	88%	88%	76%	100%

イ 「教員は、生徒や保護者の意見を聞くことに努め
ている」(右表)

昨年度の生徒88%、保護者76%であったことから保護

者が6ポイント上昇している。教員はスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと情報共有を図り、生徒に対して「いじめアンケート」を年間3回実施していることや、いじめ対策委員会を積極的に開催し、いじめの兆候を早期に捉えようとしていること Teams やClassi 等を通じて積極的に情報発信を行っていることが寄与していると考えられる。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
89%	85%	87%	87%	82%

ウ 「体罰や暴言を受けたり見たりすることはない」(右表)

比較の数値が高いことから、学校全体で生徒を大切に
扱っていることへの評価だと考える。

1年生	2年生	3年生	生徒全体	保護者
89%	92%	89%	90%	90%

⑦ エンカレッジスクールについて(1年生のみ)

質問項目	生徒(%)	保護者(%)	教員(%)
ICTを活用し、授業や学習の指導が行われている	92	91	77
30分授業は、集中して勉強できる	94	100	86
2人担任制で、きめ細やかな指導が行われている	86	82	91
体験学習は、充実している	91	93	86
体験学習で、新しい友達や講師の先生と交流ができた	91	82	86

上記、5項目のエンカレッジスクールにおける取組は生徒・保護者からの満足度が高く、今後も充実させていく必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察

- ① 生徒、保護者、教職員のアンケート結果の比較において、アンケート項目によって数値に開きがある。また、保護者からの自由意見の中に、「分からない」という記載が数件あったため、今後情報発信の必要性や課題解決への具体的な手だてを行っていく。
- ② 10年間の経年結果からは大きな変化は見られないが、「分かりやすい授業」や「進路指導」「教育相談」に

ついてこの数年で生徒からの満足度が上昇している。UD（ユニバーサルデザイン）に基づいた授業や外部講師を招いての進路指導、きめ細やかな面談等の成果が表れてきている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① 地域貢献や地域連携などの情報や御意見をいただき、新たなボランティア先や地域と交流する機会を得ることができた。
- ② 本校生徒の交通マナーや安全について具体的なお意見をいただき、指導に生かすことができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

Formsにてアンケートは3年目である。周知を繰り返し行ったこともあり、回答率は上昇したが、保護者の回答率を少なくとも50%超えるようにアンケート回収方法の工夫が必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ① 「進学応援型エンカレッジスクール」として、「学び直し」の充実を図る。きめ細やかな指導を実践し、生徒の進級、卒業を目指し、中途退学者・転学者の減少に努める。
- ② 少人数授業、習熟度別授業や朝学習・朝読書をとおして学力向上、特別な支援を必要とする生徒に対する教育相談の充実を図る。
- ③ 「スキルアップ推進校」としての取組をとおして、学校の活性化を促進する。

（2）学習指導

- ① エンカレッジスクールとしての「学び直し」を実現し、進学等の進路実現につなげる。
- ② 生徒の、授業やテストへの取組状況の数值は決して高いとは言えない。授業に対するしっかりとした取組、家庭学習習慣の確立等、保護者と連携し、学ぶ時間を増やすことが重要である。まずは、落ち着いた学習環境の定着を図り、生徒一人一人の状況に合わせた習熟度別授業や少人数授業、体験学習等の充実を促進する。

（3）特別活動

- ① 文化祭や体育祭などの学校行事の実施がコロナ禍前の従来の姿に戻り、生徒達が積極的に取組んでいる。今後は、保護者や地域の方々への一層の参加を呼びかけ、生徒の成長につなげられるような開催を検討する。
- ② ビームライフル部、演劇部が関東大会出場、バドミントン部は地域の大会で多数の入賞など輝かしい成果を残した。またダンス部やライトミュージック部が地域主催のイベントに参加し、地域との連携を深めている。
- ③ 部活動をはじめ学校活動へ積極的に参加し、帰属意識を高め、地域や社会に貢献しようという意識を高めていく。

（4）生活指導

- ① 生活指導部や学級担任を中心とした教員全員での粘り強い生徒指導を続けている。朝の遅刻指導や頭髪指導など規範意識の醸成を図っている。
- ② 登下校時の歩行・自転車マナー、近隣飲食店での来店マナーなどについて地域住民から厳しいご意見を少なからず頂戴している。マナーの大切さや精神的成長を促す指導の一層の推進を図る。
- ③ 生徒の社会性を高めるために、生徒会や部活動の地域との交流・連携を進める。また、地域からの生徒理解促進を図る。

（5）進路指導

- ① 進路指導部と学級担任を中心として1年時から進路ガイダンスなどを実施し、近い将来の自己実現に向けたキャリア教育を実践している。
- ② 大学、専門学校、就職と多種多様な生徒の希望に対し、一人一人に丁寧できめ細やかな指導を実践している。
- ③ 1年生、2年生で望ましい職業観・勤労観を養い、自身の希望する進路に向かって取り組む姿勢を育む「キャリア教育」の充実を図る。

(6) 健康・安全

- ① 学級担任、自立支援担当教員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭が中心となり、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカーと連携し、個別の支援が必要な生徒対応のための教育相談体制の充実を図っている。
- ② 今後、より一層の教育相談体制の向上、情報交換を密にした指導体制構築を推進する。
- ③ エンカレッジスクールとしての「学び直し」を実現し、進学等の進路実現につなげる。
- ④ 生徒の、授業やテストへの取組状況の数值は決して高いとは言えない。授業に対するしっかりとした取組、家庭学習習慣の確立等、保護者と連携し、学ぶ時間を増やすことが重要である。まずは、落ち着いた学習環境の定着を図り、生徒一人一人の状況に合わせた習熟度別授業や少人数授業、体験学習等の充実を促進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	3	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】 職員会議等での教職員間での情報共有の在り方についてご意見をいただいた。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、Formsだけでなく紙での併用を検討する。
- ・学校評価アンケートの検討結果を次年度に反映させるため、検討スケジュールや検討方法を見直す。